

「文化財保存活用地域計画」総合調査から⑧

ー 初夏の南部四国八十八ヶ所札所を巡る ー

〇問い合わせ

津久見市教育委員会 生涯学習課 地域計画担当
TEL 0972-82-9528 / FAX 0972-85-0081

市報3月号で、市内の南部四国八十八ヶ所札所が、明治43年(1910)頃に宮山に設けられたものを、大正14年(1925)1月、津久見町・青江村・下浦村の一町二村に分跡配置したことなどを紹介しました。

今月は、現在残っている札所を実際に廻り、確認をする機会を得たのでその様子を報告します。

こうした八十八ヶ所札所は、「南部四国道案内」(大正15年2月)や『津久見史談』第17号などで紹介されており、地域計画の関連調査でも、札所の番号を頼りに所在確認を行ってきました。しかし、長い年月の間、所在のわからなくなった札所や、所在地が旧町名で記されているためわかりにくい所も多く、調査に時間がかかっていました。

そうした調査の中、行く先々の札所でお札に書かれている黒田雅一さん、田中国明さん(中田区在住)の名前を見かけたことからこの二人に相談し、4月29・30日、札所巡りと所在の確認調査を兼ねて二日間でお参りすることになりました。お二人は10年余りにわたりお参りを続けており、以前から市内の札所の場所を調べ、とても詳しいことから先達をお願いしました。とはいえ日代・四浦・保戸島を除いて、ほぼ市内全域に及び、実際に車でまわると移動や、さらに車を降りてお堂までの道も急な坂や草むらなど荒れている所もあり、時間がかかり二日間では廻ることができず半日延長しました。

初日は、宮山登り口にある一番札所の宮本口屋から岩屋、千怒崎、彦ノ内、中田、西ノ内、警固屋、川上の一部まで、二日目は、八戸から中田一ノ鳥居、川上、川内、青江、入船、徳浦合ノ元・本町、最終日は徳浦宮町そして堅浦というように、ほぼ札所順に廻り、最後の海岸寺まで二日半の強行軍となりま

した。各札所に着くと、自分の名前を書いたお札とお賽銭をあげ、ろうそくとお線香は「もらい火はいけない」という教えから、各自で火を付けて立て、「般若心経」をあげ、手を合わせお参ります。そして休む間もなく次の札所を目指しました。こうした行程で廻り(修行の旅)参拝することでご利益をいただくことを実感しました。

調査が進むと、地域によっては過疎・高齢化が進み、お守^{もり}することがむずかしくなった札所や長い年月の間に所在がわからなくなった所もいくつかあり、こうした状況が今後より一層深刻になるかもしれないという不安も感じました。しかし、滅多に経験することができない貴重な体験をする中で、現在知ることができる札所の現状を確認し、写真や地図に落とすなど記録に残すための作業ができ、有意義な調査となりました。

今回のように昨年から続けてきた地域計画の現地調査では多くの方々にご協力いただき実施することができています。本当にありがとうございます。



南部四国八十八ヶ所札所の市内位置図(●印)



初日の出発は
1番宮本口屋霊山堂から



25番中田一ノ鳥居に向かう途中
(尺間山への旧道)



61番青江赤木大師堂
(お堂の中に南部四国創立の感謝状が残る)



最後の88番海岸寺で
協力者の記念撮影